

還ってききた半鐘



▲還ってきた半鐘

上田の長興寺は延宝2年(1674)に創建された曹洞宗の寺で、寺伝では梵鐘は寛政5年(1793)に铸造されていますが、鐘楼は明治9年(1876)に再建されています。それ迄は、本堂は無く、鐘楼を仮本堂としていた様です。明治40年(1907)の県宗務所への届出書には本堂も載っていますので、その間に建てられたと思われまます。

私が子供の頃は法会ほうえがあると、庵主あんじゅさんが軒下に吊り下げられた半鐘を叩いて開会かいえを報らせていました。ところが昭和17年(1942)全国的に梵・半鐘が戦争の為に供出されることになり、長興寺もその例に洩れまません。

話が戻りますが、昭和14年(1939)に

資料提供 長興寺

文 国枝 浩

紀元二千六百年記念として、火の見櫓が八幡神社参道脇に建てられました。それは、江戸時代で見る梯子型で、櫓けやき製六寸柱の、高さは6〜7m位だったか、子どもが昇れないように地面から1m位離して横棧が付けてありましたが、落成祝だったか、消防組(消防団)の人達が、20m位離れた長興寺から走り登り、半鐘一つ打って戻る時間競争をしました。さて寺の半鐘を供出する段になって、村役4人が相談しました。それは火の見る半鐘は供出外だから、長興寺のと取り換えて供出する話ですが、これは国の方針に逆らう事ですので、絶対秘密になつておりましたが、既に77年時効でもあり、皆故人になられていますので打ち明けました。

火の見櫓は戦後鉄骨型に替えられ、位置も三度替わりサイレンを取り付けていましたが、半鐘はそのまま今年4月21日に撤去されました。その際半鐘も鉄屑と一緒になる処でしたが、区長が半鐘は残してと云つて長興寺へ持つてきてくれました。銘を見ると、铸造は明治20年4月21日、寄進人は野村治吉(上田)铸造師は岐阜市岡本

六太郎(現鍋屋工業)となつています。鉄塔に吊り下げていた為塗装ペンキで汚れていますが、近く綺麗にして元通りの長興寺に吊り下げようと話中です。

製造日と撤去日が偶然にも4月21日、そして製造から132年、身代わり出征から77年。還つて参りました!



▲半鐘の陰刻文



▲長興寺石柱

協力 郷土史の会